

# 令和4年度 奈良学園登美ヶ丘中学校 入試問題作成方針

## (国語)

出題方針		・物語的文章・説明的文章を読み、読解力・記述表現力・言語知識を問う出題をする。
A日程 ・ B日程 ・ C日程	出題形式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語的文章 1 題、説明的文章(随筆を含む) 1 題、漢字問題 1 題の3題構成である。言語事項については、文章問題中で出題する。</li> <li>・解答形式は、記述または客観形式である。</li> <li>・記述に関しては、100 字までの論述(説明を求める記述)形式や、抜き出しで解答を求める出題をする。漢字問題は従来通り読みとりと書きとりを出題する。言語事項に関しても従来通り語句、文法知識を問う出題をする。</li> <li>・脱文補充、整序問題を出題することもある。</li> <li>・漢字問題は小学校で学ぶ漢字の中から出題する。読み書きの力だけでなく、語彙力も試す。</li> </ul>
	注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傍線部分の説明を求める部分読解問題だけでなく、本文全体を通しての主題や筆者の主張を問う出題をする。物語的文章は「登場人物の心情を把握した上で、作品の主題を考えられること」、説明的文章(随筆を含む)は「論理の展開を正しく読み取り、筆者の主張を正確に把握できること」を意識して学習しておくこと。</li> <li>・設問をよく読み、「何が問われているのか」、例えば「登場人物の心情」「心情変化の過程」「変化の原因」など、設問の意図をよく考え、的確な解答を書くこと。</li> <li>・記述問題については、字数制限に大きく達しないものは減点し、制限字数の5割に達しないものは加点しない。</li> <li>・「誤字脱字がある」「句読点が正しく打てていない」「文末表現が不適切である」などは減点の対象とするので十分に注意すること。</li> <li>・言語事項については、日頃から「和語」「慣用句(表現)・ことわざ」などに興味・関心を持っておくこと。</li> <li>・漢字については、「くずし字」「続け字」などの乱雑な書き方に対して厳しく採点するので、丁寧に書くこと。</li> </ul>

## (算数)

出題方針		・基礎的で平易な問題から応用力を必要とするやや難しい発展問題まで、広い範囲から出題する。発展問題については、特別な知識がなくても文意をよく理解すれば解決できるように配慮する。
A日程 ・ B日程 ・ C日程	出題形式	・大問は 5 問からなり、大問①、②は基本的な問題を、大問③、④、⑤は標準～発展的な問題を中心に出題し、発想の柔軟性を問う問題や、解答にいたる過程を答える問題も含まれる。
	注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間配分に留意して問題全体をよく見渡し、解ける問題を確実に解けるようにすること。</li> <li>・問題文の読み間違いや、解答欄への記入ミスがないように十分注意すること。</li> <li>・1 つの問題で小問に分かれている場合は、前の小問が後の小問を解決するための糸口となっていることがある。問題文から与えられた条件をよく理解し、その条件の下で問われた内容を解決できるように日々心がけて演習しておくこと。</li> <li>・解答までの過程を書く欄のある問題では、求め方、式などをわかったところまで書き残しておくことと部分点の対象となる。また、考えるために用いた図や表なども書き残すことが望ましい。</li> </ul>

(理科)

出題方針		・小学校の学習内容を十分に理解していることをふまえて、基礎問題から応用問題までを出題する。
A日程	出題形式	・物理分野、化学分野、生物分野、地学分野から各1題ずつ、合計大問4題を出題する。 ・各分野の出題比率はほぼ均等となる予定である。
	注意事項	・教科書では性質だけを扱っている事柄でも、考え方や計算を問う場合がある。 ・日頃から、グラフや図などを自分でかいたり、グラフ・図・写真などから答えを導き出す練習をしておくこと。 ・日常生活で経験する、身の回りの科学的な事柄や、新聞やテレビ番組で扱われる科学に関するニュースなどにも関心を持つようにしておくこと。 ・数値で答える問題では、原則として小数を用いること。 ・計算問題で、小数点以下第何位まで求めるかを指示されている場合は、その次の桁まで計算して四捨五入しておくこと。 ・漢字で答えるように指定された問題以外では、ひらがな等で答えても減点はしない。

(社会)

出題方針		・地理・歴史・公民のそれぞれの分野について、基本的な事項を中心に出題する。また、思考力を問う問題もあわせて出題する。
A日程	出題形式	・大問3問からなる。地理、歴史、公民のそれぞれの分野から出題し、あわせて各分野にまたがる融合問題も出題する。 ・語句選択や語句記述、文章の正誤を判定する文章選択の形式を中心に出題する。
	注意事項	・地理的分野は、地誌的な内容の他、地図や統計資料の読み取りなどを学習しておくこと。また世界の国々や、世界と日本とのつながりについても出題の範囲とする。 ・歴史的分野は、単純な語句暗記に終始せず、個々の事項に関する因果関係なども意識して学習しておくこと。 ・公民的分野は、日本国憲法(前文を含む)を中心に幅広く学習しておくこと。日本国憲法の前文、条文については空欄補充で出題する。 ・小学校で学習しない漢字であっても、重要語句については漢字で問う。正しい漢字が書けていない解答はすべて不正解とする。 ・時事問題および最近の出来事にちなんだ問題も出題する。日々の学習だけでなく、世の中で起こっている出来事にも興味のアンテナを張ることが大切である。